

株式会社 空間あい 創立7周年記念

空間あい サロンコンサートV
～あなたに愛と調和と芸術を～

文化庁 文化芸術活動の継続支援事業

パヴェル・フォルティンと群馬交響楽団の仲間たち

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

Mozart

Complete Flute Quartets by Wolfgang Amadeus Mozart

フルート四重奏曲全曲の夕べ

2021年1月23日(土) 14:00開演(13:15開場)

January 23rd 2021 Saturday 14:00PM

高崎芸術劇場 音楽ホール

TAKASAKI CITY THEATRE CONCERT HALL



パヴェル・フォルティン
(フルート&トーク)



秋葉 美果
(ヴァイオリン)



井桁 正樹
(ヴィオラ)



ファニー・プザルグ
(チェロ)

ごあいさつ



本日は、コロナ禍の中、株式会社空間あい創立7周年記念、「パヴェル・フォルティンと群馬交響楽団の仲間たち」においでくださり本当にありがとうございます。昨年4月26日に行う予定で、チケットを販売開始したところで、コロナ禍でやむなく中止となった演奏会を、本日高崎芸術劇場音楽ホールでソーシャルディスタンスを確保して行うことができ、ひとしおの喜びを感じております。

私が群馬交響楽団に勤務した時に、実現させたい夢が初の海外公演でした。その海外公演も1994年プラハ、ウィーン、ブタペストというハプスブルク帝国の三都で公演する素晴らしいものとなりました。パヴェル・フォルティン氏とは、フルート奏者、元群馬交響楽団の大嶋義実さんを通じて知り合い、その後私が1992年に打ち合わせで初めてプラハを訪れたときに、パヴェル氏が現地での案内、通訳などしていただき、今でもプラハでの出来事を懐かしく想っています。そのパヴェル氏は、プラハ交響楽団の首席フルート奏者から1998年4月、群馬交響楽団に転身し、その後の活躍は皆さんご存知のとおりです。

そのころ、群馬交響楽団は素晴らしい楽員に恵まれ、今回登場のヴァイオリンの秋葉美果さん、チェロのファニー・プザルグさんと国際色豊かな楽団に成長しました。若い団員を支えてくださったのが、私が尊敬するヴィオラ奏者井桁正樹さんです。現在、コロナ禍がますます厳しい状況になってゆくなかでこの演奏会を敢行することができましたのも、ひとえにここにお集まりいただいた皆さんのおかげです。

今回ここに登場する皆さんは、群馬交響楽団の楽員として素晴らしい演奏をなさっていると同時に、室内楽やソリストとしてもその才能はとどまるところがありません。今回はパヴェル氏と群響のメンバーが奏でるフルート四重奏曲の全曲を味わうひとときとなります。心ゆくまでモーツァルトを感じていただければ幸いです。

株式会社 空間あい 代表取締役 新井 浄

新井 浄

Greetings

Under COVID-19 disaster, I would like to express my gratitude to you coming the concert entitled "Pavel FOLTÝN and the Friends of the Gunma Symphony Orchestra" for the 7th anniversary of the Space Ai Co., Ltd.. The concert scheduled April 26th last year had been canceled due to the COVID-19. Now I am so pleased to be able to hold a concert by securing social distance at Takasaki Arts Theater Music Hall.

When I started to work for the Gunma Symphony Orchestra in 1991, My dream was the oversea tour of the GSO. In 1994, GSO performed in Prague, Vienna and Budapest in the three capitals of the Habsburg Empire. I got to know Pavel FOLTÝN through Professor Yoshimi OSHIMA (Present Vice President of Kyoto City University of Arts). When I visited Prague at the first time for a meeting in 1992, I still remember various events with Pavel and miss it now. Pavel had been principal flute player of the Prague Symphony Orchestra. Since April 1998 he has been a member of the GSO. At that time, the GSO had been with wonderful orchestra players, Mika AKIBA as violin, Fanny POUZALGUES as cello who will perform here. Mr. Masaki IGETA I have respected, had supported young members of GSO during the time. Nowadays the GSO grew wonderful and international orchestras here in Japan.

It is thanks to everyone who gathered here that I was able to hold the concert in the severe situation of COVID-19.

The artists who appear here are performing wonderful concerts as a member of the GSO as well as a chamber music players and soloist. Today, it will be a time to taste all the pieces of the flute quartet by them. I hope you could touch upon Mozart to your heart.

Kiyoshi Arai, Chief executive officer, Space Ai Co., Ltd.

Kiyoshi Arai

パヴェル・フォルティンと群馬交響楽団の仲間たち

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト
フルート四重奏曲全曲の夕べ

Complete Flute Quartets by Wolfgang Amadeus Mozart

PROGRAM

モーツァルト フルート四重奏曲 全4曲

Wolfgang Amadeus MOZART (1756~1791)

フルート四重奏曲 ニ長調 K. 285 (17分)

Flute Quartet in D major K 285 (Composed in Mannheim, December 1777)

- | | |
|-----------------|--------------------------|
| I. アレグロ | I. Allegro |
| II. アダージョ | II. Adagio |
| III. ロンド アレグレット | III. Rondeau. Allegretto |

フルート四重奏曲 ト長調 K. 285a (12分)

Flute Quartet in G major K 285a (Composed probably in Mannheim 1778)

- | | |
|------------------|-----------------------|
| I. アンダンテ | I. Andante |
| II. テンポ ディ メヌエット | II. Tempo di Menuetto |

—— 休憩(20分) ——

フルート四重奏曲 ハ長調 K. Appendix 171(285b) (19分)

Flute Quartet in C major K Appendix 171(285b) (Composed probably in Vienna 1781)

- | | |
|--------------------------|--------------------------------|
| I. アレグロ | I. Allegro |
| II. アンダンティーノ コン ヴァリアツィオニ | II. Andantino (con Variazioni) |

フルート四重奏曲 イ長調 K. 298 (13分)

Flute Quartet in A major K 298 (Composed probably in Vienna 1786)

- | | |
|--|---|
| I. アンダンテ コン ヴァリアツィオニ | I. Andante (con Variazioni) |
| II. メヌエット トリオ メヌエット ダカーポ | II. Menuetto – Trio – Menuetto (da capo) |
| III. ロンディアウ アレグレット グラツィオーズ マ ノン トロツポ プレスト ペロ ノン トロツポ アダージョ
コズィ コズィ コン モルト ガルボ エド エスプレッスィオーネ | III. RONDIEAOUX. Allegretto grazioso, mà non troppo presto, però non troppo adagio.
Così – così – con molto garbo ed Espressione |

2021年1月23日(土)14:00開演(13:15開場) 高崎芸術劇場 音楽ホール



パヴェル・フォルティン(フルート)

Pavel FOLTÝN, Flute

音楽教師であった父の下で、幼い時から恵まれた音楽環境に育ち、8才からヤナーチェク・フィルハーモニー首席奏者J・コロシ氏の下でフルートを始める。その後オストラヴァ音楽院を経てヤナーチェク音楽大学を卒業。その間にA・ホラク、V・ベラン、A・ボウレク各氏に師事。1981年からフランス政府給費留学生として、パリ・エコール・ノルマルに留学し、コンサート・フルーティストの学位を取得。C・ラルデ氏に師事し、1年間でディプロマを得て、卒業後はA・マリオン氏の下で研鑽を積む。帰国後もチェコ文化省より研鑽援助を受け、M・ムンツリング氏に師事。1981年「プラハの春」国際コンクール入賞を始めチェコ国内、ポーランド、ハンガリー等の国際コンクールで1位入賞、他数々のコンクールで入賞。

日本では、1996年から毎年リサイタルやクリスマスコンサート等を行い、NHK・FM名曲リサイタル、ベストオブクラシック等にも出演。マルティヌー、シュルホフのソナタ、フルート小品集、モーツァルトのフルート協奏曲のCDなど多数録音。また、オネゲルの「フルートとイングリッシュ・ホルンのための室内協奏曲」をスメタナホールにてプラハ交響楽団と、群馬音楽センターにて群馬交響楽団と共演し、録音発売している。チェコ・フィルハーモニー、プラハ交響楽団首席奏者を経て、現在群馬交響楽団フルート首席奏者。



秋葉 美果(ヴァイオリン)

Mika AKIBA, Violin

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、同大学音楽学部器楽科を卒業。その後同大学院音楽研究科を修了。ポーランドに留学し、ショパンアカデミー研究課程を修了。これまでに、西川重三、鷲見三郎、田中千香土、天満敦子、前橋汀子、ベラ・カトーナ、タデウシ・ガジーナの各氏に師事した。第9回霧島国際音楽祭で奨励賞受賞。NHK-FMリサイタルに出演。旧・東京ゾリステンのメンバーとして、国内やフランス、スペイン、メキシコ、ポルトガル、ポーランドで数々のコンサートにソリストとしても出演。その他フランス、ポーランドのオーケストラ、旧・新星日本交響楽団、群馬交響楽団と協奏曲を共演。日本やポーランド各地でリサイタルやデュオのコンサートを開催、音楽祭などにも出演した。中でも、東京ゾリステンヨーロッパ公演のライブ録音(Victor)は特に注目された。その後、群馬交響楽団の首席奏者に就任し、同時に群馬県内外でソロをはじめアンサンブルも意欲的に演奏している。近年は、八ヶ岳高原音楽堂「四季のコンサート」に度々出演した他、「秋葉美果さんを囲む会」の応援を受け、観客に親しまれる独自のコンサートを展開している。また、弦楽アンサンブル「すみれ」など後進の指導にもあたっている。



井桁 正樹(ヴィオラ)

Masaki IGETA, Viola

埼玉県出身1976年、東京藝術大学器楽科ヴィオラ専攻を卒業。同年4月、群馬交響楽団へ入団。ヴィオラを磯良男、浅妻文樹、ウィリアム・プリムローズの各氏に師事。室内楽を海野義男、日高毅の各氏に、指揮法を金子登氏らに学ぶ。群馬交響楽団では演奏の傍ら音楽教室専門委員や運営委員会委員及びインスペクターを永年務めた。1989年に発足した群馬合唱団の創設に関わる。1999年には群馬交響楽団のヴィオラ奏者全員(8名)によるヴィオラの音楽会を開催し、同年のアフィニス・アンサンブル・セレクションでは優秀アンサンブルに選ばれる。2016年9月、群馬交響楽団を定年で退職。現在は、ヴァイオリン&ヴィオラ奏者として後進の指導やこどもの為のワークショップ、シリーズ音楽物語等を展開している。



ファニー・プザルグ(チェロ)

Fanny POUZALGUES, Cello

マルセイユ音楽院でG.Teulieresに師事。チェロ、室内楽、ソルフェージュで金賞受賞。同音楽院卒業後、英国はロンドンのギルドホール音楽院でR.Sommerに師事し、優秀な成績で卒業。また、英国The String Experience Schemeのチェロセクションにて選拔され、ロンドン交響楽団(LSO)でSir Colin DavisおよびAndre Previn各氏の指揮により演奏。その後、米国のインディアナ大学大学院で堤剛に師事。同大学院音楽研究科修了。1998年に群馬交響楽団チェロ奏者就任。ソロリサイタルや室内楽においても活躍中。これまでに、W.Boettcher, C.Henkel, G.Hoffman, A.Noras, J.Starkerの各氏に師事。2010年11月から、トリオ・アンフォリアのチェリストを務めている。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

フルート四重奏曲

パヴェル・フォルティン

1777年の秋、モーツァルトは、母親を伴って、ヨーロッパ大旅行にでかけた。というのは、ザルツブルグ大司教は、父親のレオポルドがその旅行に同伴するための休暇を宮廷楽団の仕事があるため、与えなかったため、母親と一緒に行くことになったのだ。モーツァルトは、自分の類まれな才能に匹敵する仕事を与えられることがなく、宮廷音楽家の地位を得るために長い旅にでかけたのだ。1777年12月マンハイムで選帝侯からオペラの委嘱を得ようと葛藤する中、モーツァルトは、友人で名高い宮廷楽団に所属する名フルーティスト、ヨハン・バプティスト・ヴェンドリング(1723-1797)の紹介により、ある富裕なオランダ人医師、アマチュアのフルーティスト、フェルディナンド・デジャン(1731-1797)を紹介された。フェルディナンド・デジャンは、モーツァルトに「編成が小さくて、吹きやすいそして短めのフルート協奏曲を3曲、フルート四重奏を2曲」を200フローリン支払うことで、作曲を委嘱した。当時は、モーツァルトは、才能に恵まれた歌手アロイジア・ウェーバー(その後、モーツァルトは、彼女の妹コンスタンツェと結婚するのだが)に夢中だったが、デジャンの委嘱依頼を旅先での手元不如意で断るわけにはいかなかった。

1777年12月25日、委嘱を受けてから約2週間後に、モーツァルトは、フルート四重奏曲第1番ニ長調KV285を完成させが、その後2月15日にはマンハイムを出発するにもかかわらず、その他の作品については、筆が進まなかった。2月12日父レオポルドからの書簡では、委嘱依頼をまだ完成してないことを厳しく叱咤されている。モーツァルトは、結局のところ、フェルディナンド・デジャンの依頼にたいしてすべて応じることはできなかった。モーツァルトは、2か月後に、デジャンに対して二つフルート協奏曲一ト長調KV313/285cとニ長調KV314/285d、おそらくフルートと管弦楽のためのアンダンテハ長調(KV315/285e)、二つのフルート四重奏曲(KV285とKV285a)を完成して渡したが、ニ長調の協奏曲は、時間的余裕がなく、手際よく、ハ長調のオーボエ協奏曲をフルート用に編曲したもので、またト長調の協奏曲についても、モーツァルトがマンハイムに滞在中に作曲されたものではなく、1777年7月26日ザルツブルグで、姉のナンネルの聖名祝日のために書いた「フルート・トラヴェルソ・

コンサート」との同一作品であることは、否定できない。

フェルディナンド・デジャンは、その結果に満足せず、約束された200フローリンにたいして、96フローリンしか支払いませんでした。1778年2月14日の父親への書簡に、このことについて「デジャン氏も、明日パリに向けて旅立ちます。私は、彼に二つの協奏曲と三つのフルート四重奏曲を完成したのに、半分の100フローリンに4フローリン足りない96フローリンしか支払いません。ヴェンドリングに通じて約束した通り、デジャンは、僕に全額支払うべきです。僕は、すべての依頼作品を完成させていないけど、後で送ると約束したのです。僕は夜中にしか作曲できしないし、朝起きたときは調子がすぐれません。ここでは、作曲のための静かな環境がありません。それ以上に、作品の構想をねるための環境が必要です。僕は勝手気ままにいつでもどこでも作曲したいのです。それでも、この作品が世の中に出るということは、私の名前に恥じないように注意しなければなりません。」と父親のレオポルドに綴っている。

フルート四重奏曲ハ長調KV Anhang 171/285bとイ長調KV298は、デジャンの委嘱により作曲されたと考えられていたが、最近の研究によると、五線紙の材質及びその譜面に書かれているサインの形態によって、その作曲は、ウィーン時代の1781年から1786年の間に作曲されたことが、分かってきている。



フルート四重奏曲 ニ長調 KV285は、マンハイムにおいて、デジャンの委嘱により、ちょうどモーツァルト22歳の誕生日の1か月前の1777年12月に作曲された、完全な古典様式による作品である。

第1楽章(アレグロ)は、ソナタ形式で、弦楽器の進行とともに、16音符によるヴィルトーソ・パッセージによるフルートが協奏交響曲的な役割を果たしている。

第2楽章(アダージョ)は、セレナーデのように弦のピッツィカートに伴ったフルートの哀愁をおびた短調によるカンティレーナが特徴的である。モーツァルトが楽器のために書いた最も美しいメロディーである。

第3楽章(ロンド)は、ダンス形式で書かれており、典型的なマンハイムのスタイルになっている。

フルート四重奏曲 ト長調 KV285aは、マンハイムで1778年の初めに第2曲目のフルート四重奏として作曲されたと思われる。この作品は、前作品の二長調に比較すると若々しいエネルギーと情熱を感じることはできないが、二つの楽章から構成され両楽章ともに、見事な素早い動きはなく、終楽章にロンドはない。

第1楽章(アンダンテ)は、華麗なメロディーが洗練された管弦楽法で、奏者の息遣いと音色による、やすらぎもたらしてくれる。

第2楽章(テンポ ディ メヌエット)は、典型的なギャラント様式で書かれ、A-B-Aという構成を持ち、典雅な三連符の動きが全体を支配している。



フルート四重奏曲 ハ長調 KV Anhang 171 (285b)は、二楽章で構成され、長い間マンハイムでフェルディナンド・ドジャンの委嘱によるフルート四重奏第3番の作品と考えられていたが、その作品の成り立ちを知る手がかりなく、他の事実が明るみにでた。第1楽章の自筆のスケッチ10小節分(149-158)がモーツァルトの歌劇「後宮から誘拐」(1781)のスケッチと同じ用紙に書かれていること。また第2楽章の変奏曲が12管楽器とコントラバスによるセレナード第10番変ロ長調「グラン・パルティータ」KV361/370a(とはいえ第三稿には、複数の相違はあるが)の第6楽章とほぼ同一のものであること。それによってこの作品1781年から82年、その後のウィーンで書かれたと推測されるに至った。

第1楽章(アレグロ)は、ソナタ形式で書かれており、フルートによるダンスやカンタービレのテーマで、ヴァイオリンとの対話が快い旋律である。

第2楽章(アンダンティーノ コン ヴァリアツィオニ)は、二部形式でフルートによるアンダンティーノの主題が演奏され、その後六つの変奏曲で、ヴァイオリン、チェロ、ヴィオラとそれぞれのソロに受け渡される。しかしながら、この作品がモーツァルトのものであるという信憑性については、いまだ解決されていない。



フルート四重奏曲 イ長調 KV298は、やはりその作曲年代について明らかに定まっていなかったが、「Quatuors d'air dialogues」というジャンルに属するもので、他の作曲者による歌劇や歌曲など当時親しまれていた既存の旋律を借用したものである。

第1楽章(アンダンテ コン ヴァリアツィオニ)は、フランツ・アントン・ホフマイスター(1754-1812)の有名なリート「自然に寄す」からとられたものである。それに続く変奏曲では、主題がフルート、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロと活発駆け巡る。

第2楽章(メヌエット トリオ メヌエット ダカーポ)のトリオでは、フランスの古いロンド「バステイアンが長靴をはいている」からとられたものである。

第3楽章(ロンディアウ、アレグレット グラツィオーゾ、マノン トロoppo プレスト、ペロノン トロoppo アダージョ、コズィー コズィー コン モルト ガルボエド エスプレッスィオーネ)は、当時ヨーロッパでコミックオペラの最高傑作と称賛された、ジョヴァンニ・パイジェッロのオペラ「勇敢なる競演」のアリア「優しい人はどこに」の旋律を主題にしたロンドが採用されている。このオペラは1786年春にナポリで初演され、同年9月にウィーンでも行われた。モーツァルトは、このオペラを最初のプラハ訪問の折、1787年1月に鑑賞していることを友人のゴットフリードに1787年1月15日の書簡で知らせている。そのことから、この作品は、1786年以降のウィーンで作曲されたと考えるのが妥当である。おそらくウィーンでモーツァルトの友人のジャカン邸で社交の際演奏されるために書かれたとも推測もできる。またジャカン伯爵がモーツァルト自筆楽譜を提供したのだろう。(ウィーン国立図書館に所蔵されている自筆楽譜の最初のページ、ジャカン伯爵からの寄贈とある)モーツァルトのユーモアは、第3楽章のテンポについて、フランス語句のロンディアウを使い冗談交じりにロンディアウ アレグレット グラツィオーゾ、しかしあまりプレストすぎず、さりとしてあまりアダージョすぎず。そうそう、そんな風に一思いきり気取って、表情豊かにと書かれている。これは、この作品を深刻に捉えることなく、音楽のデザートのようなのだと示唆しているだろう。

モーツァルトのフルート協奏曲と四重奏曲は、これらのジャンルのなかで最も優れた作品である。しかしながら作曲家自身、フルートという楽器に興味がないのにも関わらず(1778年2月14日の書簡で父親に)他の楽器奏者が羨むほど素晴らしい作品である。この四重奏曲の清々しい雰囲気は、聴衆を魅了し、数限りない音楽の喜びを永遠に与えてくれる。

(CDのパンフレット英語版から翻訳 新井 浄)



編集後記～モーツァルトとその時代～

音楽学者アルフレート・アンシュタインは、モーツァルトが1787年6月14日に作曲した「音楽の冗談」K. 522によって失われた音楽の秩序を回復するために同年8月10日、彼の作品の中で最も有名な「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」K. 525を作曲したと推測している。興味深いことにこの二作品は、モーツァルトに対しての依頼、委嘱作品ではなく、本人自身が自ら作曲したものである。その時代におけるモーツァルトのほとんどの作品は、委嘱、依頼、予約演奏会である。それほどモーツァルトは、自らの生活が苦しかったのだろうか? いや違う。

本日ここに降臨したヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-1791)は、35年の短い生涯の間に、実数およそ800曲もの天上の音楽を残し、疾風のごとくこの世を駆け抜けていった稀有の天才でした。振り返ってみると、音楽家が芸術家として尊敬され社会的にも安定した地位につくことができるようになったのは、たかだか19世紀以降のことで、モーツァルトが活躍していた18世紀後半には、その社会的な身分はまだまだ大変低く、収入も不安定で、雇主からは下僕並みの扱いを受けていました。こうした屈辱的な状況にあき足らず、独立した音楽家としての自由な身分を勝ち取ろうと最初に試みたのが、モーツァルトでした。モーツァルトは、最初故郷のザルツブルクの領主ザルツブルク大司教に仕え、その宮廷オーケストラのコンサート・マスターを務めていましたが、1777年の10月末、そりが合わなくなっていた時の大司教ヒエロニムス・コロレドに辞職願を提出して職探しの旅(マンハイム→パリ大旅行)に出発しました。「音楽家の天国」とうたわれたマンハイムにやってきたモーツァルトは、名高い宮廷楽団に所属する名フルーティスト、ヨハン・バプティスト・ヴェンドリングの家庭に親しく出入りするようになり、彼の仲介で、ある富裕な音楽愛好家デジャンからの依頼により作曲されたのが、二長調K. 285、ト長調K. 285aである。しかし、当時音楽家を大事に扱ってくれるようなそんな有利な就職口がおいそれとは見つかるはずもなく、1779年モーツァルトは、父親のやっとの思いの根回しが奏功してザルツブルクの宮廷オルガニストとして復職しました。1781年の春、大司教の命でウィーンへ、しかしながら無理解な扱いについて我慢ができなくなり、自ら辞表を叩きつけて公職を去り、フリーの音楽家としてウィーンで活動することになったのが、モーツァルト25歳の時でした。まさしく宮廷に庇護された芸術が社会的に花開くための挑戦がモーツァルトの天命でした。後半に演奏されるハ長調K. Appendix 171(k.285b)、イ長調K. 298は、この時代に作曲されました。ウィーンでのモーツァルトの挑戦は、まさに現在のコロナ禍での文化芸術に対する新たな試みに暗示を与えてくれます。

正月、ふとしたことから、NHK新春時代劇「大岡越前スペシャル」をみて、大岡越前が白洲にて、吉原での遊女で父親の仇に老中に短刀を向けた武士の娘、それを助ける病魔におかされ余命いくばくもない浪人に対して、裁きとして武士の娘に浪人の死をみとるという大岡裁きでした。映像では、裁きの瞬間から看取るまで、モーツァルトのレクイエムだけが流れ、モーツァルトの音楽が時代劇の中で自然に感じられました。

大岡越前(1677-1752)とモーツァルトは、18世紀にともに生きたこと、そして江戸時代の鎖国によって途切れながらも、大航海時代に、鉄砲とキリスト教ともにもたらされた西洋音楽が生き続けていると感じました。洋の東西を問わず、音楽とはいったい何なのか。人間と音楽、社会と音楽、音楽という不思議な人間の営みが、私たちの内面に深くかかわっていることを、このコロナ禍で、夜明けを信じて、感じていただけたと確信しています。

～なんとなく大岡越前とモーツァルトが似ているようで～

2021年1月
新井 浄



Recordings with Pavel Foltýn by Clarton Edition



CO 0078-2 031

“Mozart from Prague”
Complete Works for Flute and Orchestra
Virtuosi Pragenses, Milan Lajčík – Artistic Leader
Cover Art Barbara Kraft: Portrait of W. A. Mozart,
Model of Prague by Antonín Langweil
Cover Design © Pavel Jasanský, 2006



CO 0079-2 131

“Dream”
Pieces by Schubert, Fauré, Dvořák and others
Michiko Mitoma – Piano
Cover Art © Alfons Mucha: “Rêverie du soir”
Cover Design © Pavel Jasanský, 2006



CO 0087-2 131

“Salut d'amour”
Pieces by Elgar, Debussy,
Granados and others
Michiko Mitoma – Piano
Cover Art © Alfons Mucha: “Laurel”
Cover Design © Fermata, 2013



CO 0088-2 131

“Wolfgang Amadeus Mozart: Flute Quartets”
with Members of the Stamic Quartet
Bohuslav Matoušek – Violin, Jan Pěruška – Viola,
Petr Hejrný – Cello
Cover Design © Vojtěch Jasanský, 2014



CO 0089-2

“Beethoven / Reger: Serenades”
with Members of the Stamic Quartet
Bohuslav Matoušek – Violin, Jan Pěruška – Viola,
Cover Design © Vojtěch Jasanský, 2014

【感染対策のおねがい】

本日の演奏会は座席指定ではございませんが、400名のキャパシティーに対して、約半分のお客様に限定させていただきました。自由席ですので、お知り合いの方は、隣同士に座っていただいてもかまいません。またお一人でお越しいただいた方には、ソーシャルディスタンスを確保してお座りください。会場内では、マスクの着用をお願い申し上げます。

【Request for infection control】

Today's concert is not reserved seats, but we have limited the capacity to about half of the capacity of 400 people. It is a non-reserved seat, so if you know someone, you can sit next to each other. If you come alone, please secure a social distance and sit down. Please wear a mask at the venue.



株式会社 空間あい ～あなたとあなたのまわりに愛と調和を～ 代表取締役 新井 浄
〒370-0087 高崎市楽間町280-14 kuukan.ai@gmail.com Phone 090-1815-4608 Fax 027-344-1582
Space Ai Co., Ltd., CEO Kiyoshi Arai 280-14 Rakuma-machi Takasaki-shi 370-0087 JAPAN

ステージマネジャー：吹田悦雄 録音：下田智彦 (Kojima Recording Inc.) 写真：下田智彦 録画：原人社
スタッフ：新井晶子、新井潤子、新井久恵、稲垣幸枝、大畑亜樹夫、今野里沙、齊田純子、角具宏明
デザイン・編集・印刷：原人社